

ミャンマー・ヤンゴン市における防災教育の持続可能性に関する研究：
クンジャンゴン、ボタタウン、バズンダウン行政区の高等学校を事例として

ティン・ライン・ウー

キーワード：防災教育、学校防災教育プロジェクト、減災

2008年5月、サイクロン「ナルギス」がミャンマー連邦共和国を直撃し、ヤンゴン市およびエーヤワディ地方域の37町区において死者84,537名、負傷者19,359名の被害をもたらした。およそ60%（約4,000棟）の学校が全壊し、113名の教師と教職員が命を落とした。教育省は外部組織と協力し、学校教育と課外活動を基盤とした防災教育プロジェクトの側面から防災教育を実施している。しかしながら、「ミャンマーの万人のための教育」のレポートによると、学校は防災活動を定期的に行うための時間や財源が十分ではないことが指摘されている。その理由として、教師や生徒の予定が詰まっていることや防災の教育支援が生徒の興味をひいたり、参加を促すのに十分ではないことが挙げられている。事前調査の教師に対するインタビューでは、プロジェクトが終了した後、人材不足や地方政府、地元コミュニティの協力が得られなかったために防災教育活動が実施されていないことが明らかになった。生徒に対するインタビューでは、学校教育及び課外活動から防災に対する適切な知識を学び、習得していることが明らかとなった。

以上より、本研究では防災教育の現状を把握し、学校における防災教育導入の課題を明らかにすること、及び生徒の防災に関する知識と対策活動に対する防災教育の成果を実証することを目的とする。これらの目的を達成するため、本調査では事前調査、文献調査、調査対象地の高等学校の校長及び生徒に対する定性的かつ定量的アンケート調査を実施した。調査対象はヤンゴン市内のクンジャンゴン、ボタタウン、バズンダウン行政区の高等学校を選定した。選定理由は、教育相と外部組織がクンジャンゴン及びボタタウン行政区は学校防災教育を導入されていたからである。本研究では学校を防災教育活動が続けられている学校、続けられていない学校、防災教育活動が導入されていない学校の3種類に区分した。

実施組織は教師に対して能力形成訓練を行ったが、頻度は限られており、学校の教師全員が受けていたわけではなかった。訓練に参加した教師は、生徒の避難訓練として市内巡回のような活動を実施した。しかし、防災担当の教師がほかの学校に移った現在、訓練に参加していない教師はそのような活動を実施できていない。また、学校は防災教育を行うための地方政府や地元コミュニティからの協力を得ていない。深刻な災害経験をしたことがなく、防災は優先されないからである。校長や教師は学校防災管理委員会を設立し、学校安全計画を展開しているが、学校のほかの優先順位の高い活動で予定が詰まっているため、委員会も計画も定期的に再吟味や更新はされていない。生徒は学校教育や課外活動からサイクロンや火事、地震、洪水に対する危険や影響、対策に対する適切な知識を習得している。その一方で、多くの生徒は地震対策や地震の二次被害に対して誤った回答を選択していた。